



「おとしぶた」

柳家小はん

「えー、落語は古典芸能だといわれますが、古典というほどのものじゃありません。ほんの世間話です。落語を古典なんていえば、源氏物語の紫式部さんが怒りますよ。『冗談じゃないわよ、なんで落語が古典なのよ、落語は小はんよ！』」

この古典落語も近頃はやりにくくなってきました。というのは、ここへきて生活がガラリと変わってきまして、落語の中で、へついだの、おはちだの、しちりんだなんて言っても、今の若い人たちには何のことかわからない。見たことも、使ったこともない。一か所話が分からないと、古典落語は難しいといつて、聞いてくれない。

そこで最近、お年寄りから愚痴を聞かされます。

お孫さんに若いお嫁さんが来て、一緒に台所で料理をこしらえていまして、

『おとしぶたをして』といいました。

ところがお嫁さんには、このおとしぶたが分からない。

何を思ったか、表へ飛び出して行きました。

肉屋さんで『おとしぶたを百グラム下さい。』

一緒に揚げ出し豆腐をこしらえてまして、

『豆腐を水切りして』といいましたが、

この水切りが分からない。

見ていると豆腐を水の中に入れて切っていました。

切った豆腐をフライパンの熱い油の中にぶちまけました。

パンと爆発して自分の顔が揚げ出し豆腐になってしまいました。

日本人同士、日本語が通じなくなりました。」

